



# 地域エネルギー会社の設立について

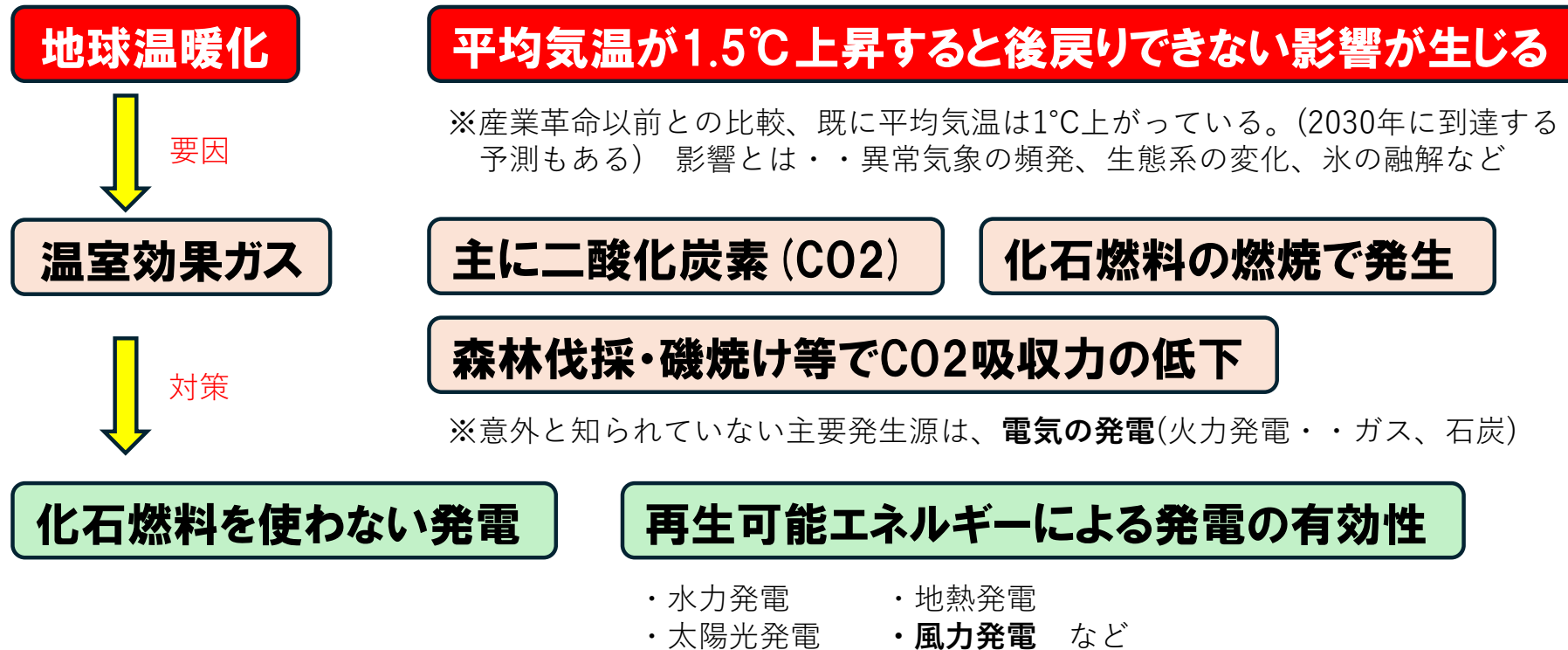


松前再エネ電力株式会社

Mr e-P



## 1. 設立の経緯



松前町は、日本有数の風況が優れた町であり、風力発電の適地とされている。大型・小型を問わず、風力発電施設が想像以上に増加  
一方で、住民に対する恩恵は、目に見えて感じるものがない現状にある。  
2023年3月 松前町は、「ゼロ・カーボンシティ表明」をし、2030年までにCO<sub>2</sub>の大幅削減を目指し、風力発電をメインとした脱炭素対策と持続可能なまちづくりに寄与する地域の発展と恩恵を模索する。

## 2. 松前の風力発電等の現状

### ① 風力発電設備等の現状



イメージ画像

太陽光発電（屋根置除く） 14カ所 約6,108KW  
 (仮)設備利用率12.55% 年間発電量 6,715MWh



風力発電（大型）12基（3,400KW/基） 40,800KW  
 （小型）150基以上 約3,000KW  
 計 約43,800KW  
 (仮)設備利用率35.61% 年間発電量 136,631MWh

松前町内消費電力量（2023） 27,100MWh

松前町内発電量見込 143,346MWh **発電量は消費電力量の5.3倍！**

2027年度からは、風力発電（大型）12基（4,300KW/基） 51,600KW増加

年間発電量 160,963MWh 松前町内発電量見込 304,309MWh

近い将来 松前沖洋上風力発電 規模 315,000KW

年間発電量見込 982,000MWh

将来年間発電量見込 1,286,309MWh

松前町の年間消費電力の47.5倍で、**松前町**と**福島町**と**函館市**をカバーできる発電量

## ② 地発地消への恩恵

これだけの発電量(洋上風力除く)があって、松前町にどれだけの恩恵があるかを考える。

- ・ 発電事業者は、電力小売会社等へ売電し収益を得る。
- ・ 発電設備の固定資産税が町に収入される。(間接的恩恵)
- ・ 発電事業者が地域振興策を実施する場合がある。(間接的恩恵)

**・ 町民が再エネ電気を手頃な額で利用する。(直接的恩恵 + 脱炭素貢献)**

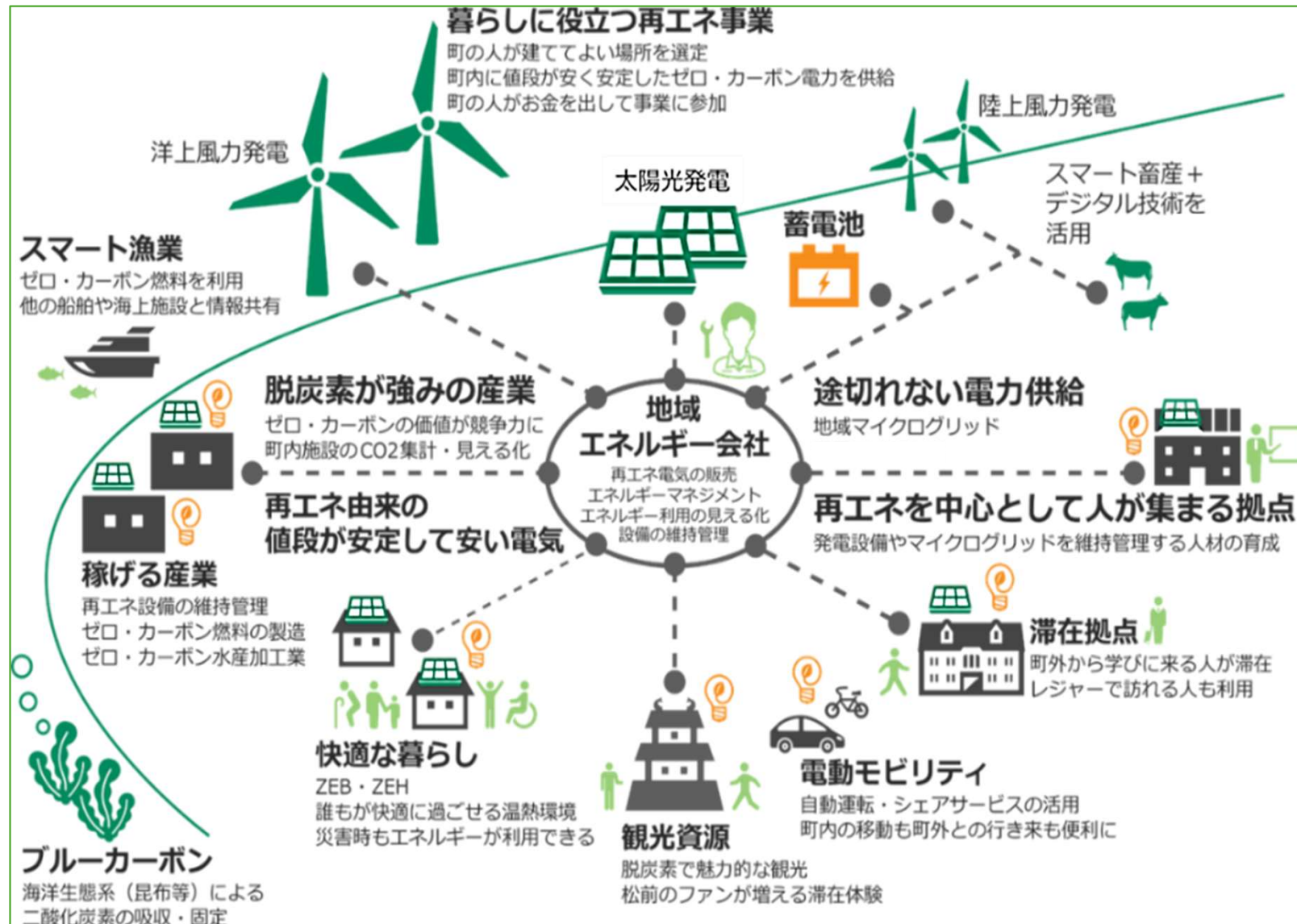
松前町民(需要家)が、お手頃に気軽に電気を購入(選択)できる仕組みプラス脱炭素に貢献する仕組み、さらに、費用の町外流出を防ぎ、域内循環により地域振興に費用をまわす。

風力発電の

**「直接的恩恵」 + 「脱炭素貢献」 + 「域内循環」 + 「地域振興」**を成し遂げることを地域で発電、地域で消費することで解決、地域エネルギー会社がその役割を担う。

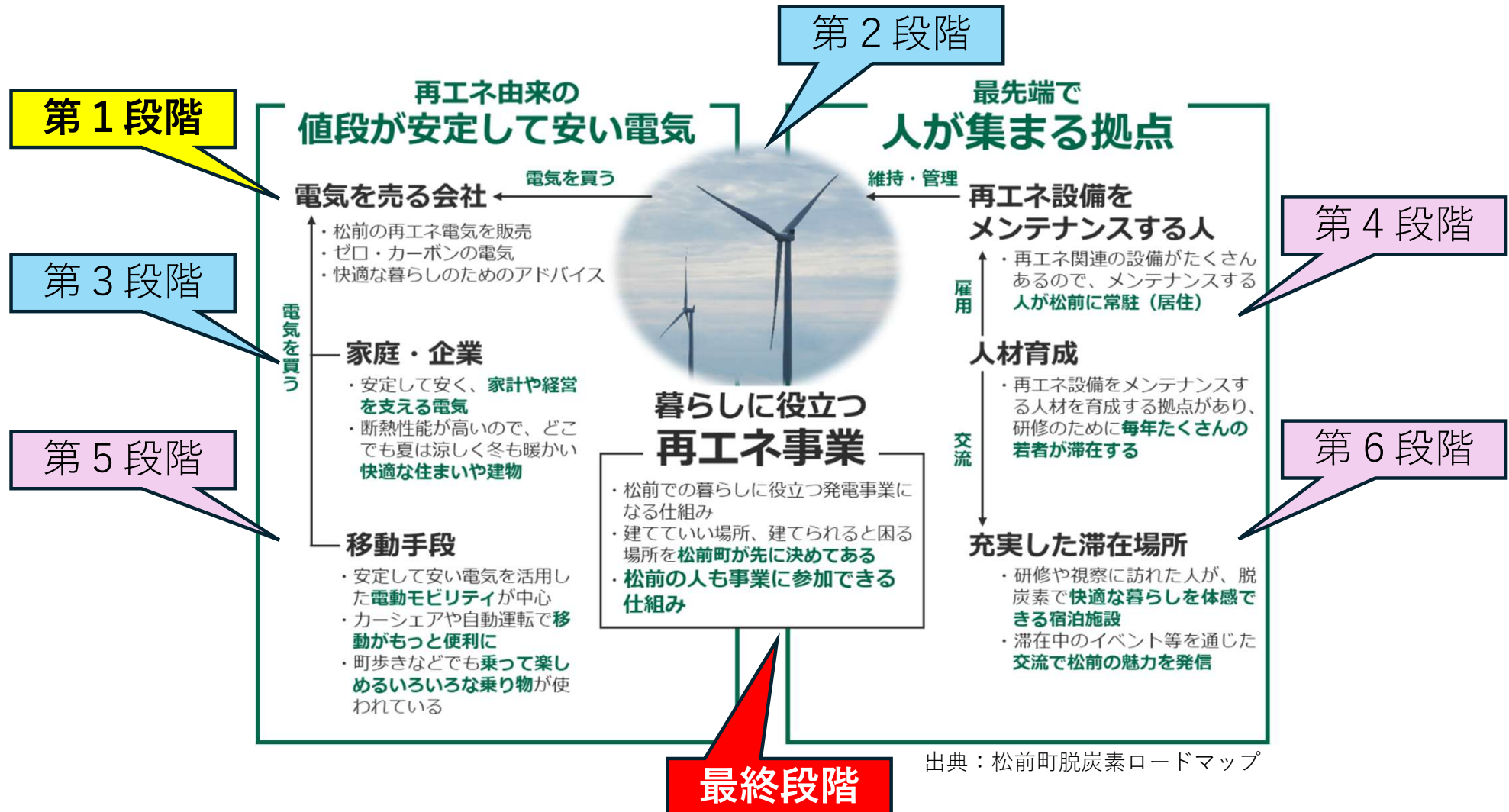
### 3. 会社の理想と今後の発展性

#### ① 理想 再エネと地域のハブを担う



出典：松前町脱炭素ロードマップを一部加工

② 発展性 再エネ事業を広め持続産業とする



第4段階以降においては、電気事業以外の複業も視野に



# 松前町で、電力の地発地消と 脱炭素化社会の実現を！

弊社は、松前町が「城と桜のまち」から、いつの日か「城と桜と風のまち」と呼ばれるようになり再エネ(風力発電)が一次産業や観光に役立っていることが夢であり、その目標として、陸上風力発電施設の建設および売電する体制をつくることとしております。

## 伝統は新しい風を取り入れて、引き継がれていくもの

松前の桜も先人たちが一生懸命育ててくれたことで、名物となり、松前は桜の名所となりました。新しいものを取り入れるときは、勇気も必要であり、現状維持を望む批判もあると思います。資源の有効活用と企業の採算性、国・町の政策に合致する松前での風力発電の可能性を信じて努力してまいります。

